

# 車部品のセキソー

自動車部品メーカー、セキソー(愛知県岡崎市)が地域の雑草を原料に使った製品づくりに乗り出した。雑草の焼却処分を減らし、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出を抑える狙い。創業間もないころ、紙を使った車部品を手掛けていた同社は、石油由来の樹脂でできた車部品を紙製に置き換える研究開発にも力を入れる。「原点回帰」と言える挑戦で脱炭素にっ  
なげたい考えだ。  
(白石 巨)

# 雑草活用 たくましく 挑戦



同社の本社工場には、サヤや雑草が山積みになった一角がある。行政から委託を受けた業者が竹やぶで伐採したり、矢作川の河川敷から取り除いた雑草だ。ゴルフ場からも芝刈りで出た芝も分けてもらう。

天日干しで乾燥させた後、細かく切って煮沸処理し、セルロースと呼ばれる植物繊維を取り出す。山田昌也社長は「地域の雑草は使い道がなかったが、車の部品として循環させれば環境に貢献できる」と語る。植物はCO<sub>2</sub>を取り込んで

育つが、地域の雑草は回収した後焼却処分され、CO<sub>2</sub>を放出しているのが現状だ。雑草を燃やさず、製品の原材料として炭素を固定すれば「カーボンニュートラル(炭素中立)どころか、カーボンリデュース(炭素削減)になる」という。

一九五四年に長野県岡谷市で創業した当時は、絹糸を入れる容器など紙製品が主力で、セキソーの社名も紙の「積層」に由来する。五〇年代に自動車部品に参入し、当初は、紙でシート  
の芯材や助手席の小物入れなどをつくっていた。その後、ほとんどの車部品は樹脂製に置き換わったが、今も唯一残る紙製品が、車を輸出する際にタイヤのディスプレイキがさびないように覆う防錆カバーだ。



地域の雑草やサヤを原材料に使った紙製の防錆カバーを手にするセキソーの山田昌也社長(愛知県岡崎市)

## かつても紙材料の製品…原点回帰へ



雑草から取り出した植物繊維。紙つくる製品の原料になる

これまで古新聞や段ボールでつくっていたが、昨年から植物繊維を原材料の一部に使い始めた。防錆カバーは年に二十五万個出荷しており、現在、使用する雑草は月四トで、年十万吨のCO<sub>2</sub>削減効果になる。原材料に14%の雑草を混ぜているが、今後、50%まで高めたい考えだ。

さらに、第二弾として樹脂製の車部品を紙製に置き換える開発を進める。フロントガラスの曇りを消す送風ダクトで、かつて同社が紙でつくっていた製品だ。紙でも軽量化でき、加工精度も高まったが、紙のため湿度が高いと形が変わってしまう課題が残る。滑かした紙を金型に流し込み成型する工作機械を導入する予定で、量産を目指し開発を加速する。

山田社長は「土に埋めれば、三カ月で土に返り、紙なのでリサイクルも可能だ」と指摘。「紙で車をつくる」という発想は普通な  
いと思うが、僕らは昔やっていた実績がある。耐久性や生産性の要求仕様をクリアできれば、決して無理じゃない」と意欲を見せる。